

中国国内の木材需給分析

2024 年上半期、中国の世界市場からの木材輸入総量は 3,276 万 9,000m³であり、前年同期比 5.3%減少した。この数字は、中国税関総署が発表した最新統計によるものである。これに関連する貿易額も同様の減少傾向を示し、前年同期比 5.1%減の 68.5 億ドルとなった。

2024 年 6 月、中国の木材輸入は減少傾向を示し、データによると、同月の木材輸入量は 491 万 m³で、前年同期の 599 万 m³から 17.8%減少した。中でも製材輸入量は 383 万 m³から 269.5 万 m³へと大幅に減少した。同時に、貿易額も若干の減少を示し、5 月の 1 億 800 万ドルから 491 万 m³相当金額となり、前年同期比 13.7%の減少となった。この変化は業界の注目を集めている。

ニュージーランド産ラジアータパインは、高品質と幅広い用途から、原木市場で 46%のシェアを占めているが、市場の変化により、輸入量は 171 万 m³から 125 万 5,000m³へと 27%減少した。

世界の木材市場は変動が大きいだが、中国のアフリカ産木材に対する需要は依然として旺盛である。税関のデータによると、2024 年 1 月から 6 月にかけて、中国は合計 146 万 m³のアフリカ材を輸入し、前年同期比で 16%増と大きく伸びた。輸入総額は 4 億 7,000 万ドルに達し、前年同期比で 8.6%増加した。一方、輸入平均単価は 7%減とわずかに下落した。

年明け、アフリカの一部の国では雨季の影響があり、アフリカからの木材の到着は 1 月に 19%激減した。しかし、木材輸入は 2 月と 4 月にそれぞれ 79%と 44%急増し、6 月も 33%の堅調な伸びを維持し、市場需要の回復を示している。

アフリカの対中木材輸出国の中で、ガボン今年上半期最大のハイライトとなり、対中木材輸出量は 58%増の 40 万 7300m³に急増した。南アフリカとガーナも、それぞれ 75%と 89%という驚異的な成長を達成し、上半期の木材貿易における新興勢力となった。

2024 年上半期、中国のフィンランドからの木材輸入は減少を続けた。これは 3 月以降、特に顕著で、5-6 月には 49%、48%減となった。理由としては、金融変動、貿易政策、内需の変化などが考えられる。企業は市場情報とともに、これらに基づき予測を行うことになるだろう。

2024 年上半期時点で、フィンランドの木材貿易はすでに昨年の水準に達し、かつ過去 5 年間の平均を 16%上回るなど、現在から将来へ強い成長力を示している。2024 年 6 月の価格高騰には、いくつかの要因が考えられる。フィンランドの貿易業者は、より収益性の高いバ

ルト海諸国やヨーロッパへの輸出を選好している。中国市場への輸出の減少は、需給調整、紅海危機による輸送問題、中国の内需減少が重なったためである。短期的には中国の輸入需要の回復は容易ではなく、フィンランドはヨーロッパへの輸出を増やすであろうが、供給不足のリスクも存在する。

3月以降、国内木材の在庫は「自発的在庫処分」の段階に入り、川下の需要回復には構造的な差違が存在する。今年下半期は、この傾向が長期的に続く可能性がある。アフリカからの輸入の増加は、多様化し品質が向上したアフリカ材に対する国内市場からの需要を反映したものである。

要約すると、2024年上半期の木材輸入データはいくつかの変化を示している。輸入量全体はわずかに減少したものの、広葉樹材の輸入は、質感の異なる多様な木材に対する消費者の嗜好の変化を反映し、大幅な伸びを示した。加えて、不動産市場に対する政策支援と、家具・内外装を中心とする消費者市場の回復が、木材需要を後押ししている。国産材の供給は徐々に増加しており、潜在的な供給力は大きい。第14次五か年計画期間中の中国の年間森林伐採量上限は2億7,500万m³に設定され、以前より2,100万m³増加した。これは、中国政府が経済と生態系保護の新たなバランスを模索していることを示している。同時に、現在はコウヨウザンとマツソクパインの市場取り扱量が急増しており、これは木材産業のこれら樹種への需要が増加し、供給源の多様化を求めていることを反映している。